

人薬という言葉聞いたことはありませんか。これは、人とのコミュニケーションをおして感じる優しさや愛を指します。人薬に触れることで、うつなどの心の負担が回復していくとも言われています。また、人薬は人が困難にぶつかったとき、乗り越えるための大きな助けにもなります。12月の障害者週間、あなたも一緒に本当の優しさを考えてみませんか。



てるしのワークセンターのみなさん

## てるしのワークセンター

(南風原町字宮平206-1)

てるしのワークセンターでは、障害を持つ人の不安に寄り添いながら、社会に踏み出すサポートを行っています。毎年50人程度の利用者が活躍していて、パン作り、弁当作り、園芸、軽作業を行っています。



商品を見せてくれる前田さん

捨てる段ボールを使って、新しい作品を作るルポダーンとブルーシールのコラボグッズが、てるしのワークセンターで手作業で作られているのを知っていますか。担当している前田さんは「丁寧に扱わないと段ボールが破れてしまうので、3年この仕事をしています。毎回丁寧な作業を心がけています。自分の作った物が売れると、とても嬉しい頑張る気持ちが湧いてきます」と教えてくれました。



パンの袋詰め・検品

朝一でふっくら焼き上げたパンは、利用者みなさんが手作業で袋詰め・検品を行います。パンは町内外で販売され、お客さんからは手頃で美味しいパンと大好評だそうです。役場での出張販売もありますよ。おすすめは豚まんです。

嘉数さんは元々、てるしのワークセンターでパン作りをしていましたが、以前パソコンを使う仕事をしていて知った職員が伝票入力を依頼。今では、嘉数さんの得意分野が発揮され、本人もさらに楽しく仕事ができているそうです。

## 地域の人薬



伝票入力を行う嘉数さん

## 沖縄県身障者運転支援協会



理事 與那嶺 幸博さん

南風原町在住の與那嶺さんは、3年前に身体障がい者やパーパードライバーの運転をサポートする「アクアドライビングスクール」を設立し、町内外の方へ運転のサポートを行っています。「元々健常者だった人は、動かない手足で運転なんかできるはずがないと諦めの気持ちが強くなります。私の仕事は、障がいを持っていても運転できるように改造した教習車を使って、昔運転していた楽しい記憶を呼び起こし、未来への希望を持ってもらうことからスタートします。私たちは普段、目的地へ行く・ドライブをするなどの理由で運転していますが、運転ができる喜びを実感しないまま運転している方がほとんどだと思います。身体に障がいを抱えた方には、運転ができることが大きな希望となります。希望があれば、どんなことにもチャレンジできることを沢山のの人に伝えていきたいです」と教えてくれました。

## 運転が出来る喜び

「與那嶺さんの指導で運転ができるようになった」事故が原因で身体の右半分がマヒ状態になった方がいます。その方は、事故後は身体を動かすことも出来ず、病院で生活していましたが、毎日のリハビリを続けたことで、家に戻るまで回復し、本人は喜びでいっぱいだったそうです。しかし、家での生活を続けていくうちに、自分の行動範囲が家の限られたスペースであること、外に出るにも人にお願いをしたり、助けを借りないと行動出来ないことに、罪悪感や無力感を感じるようになっていきました。與那嶺さんのサポートもあり、現在は自立して運転ができるようになり、自分の好きな場所へいつでも行ける楽しい生活が送れているそうです。

私たちが暮らす地域社会は、さまざまな価値観や身体的な特徴を持つ、多様な人で構成されています。お互いの違いを尊重し大切にすることが、誰もが輝ける優しい町づくりの第一歩に繋がります。相手を思いやる気持ち、声かけ、そんな小さな優しさを発信する側になってみませんか。

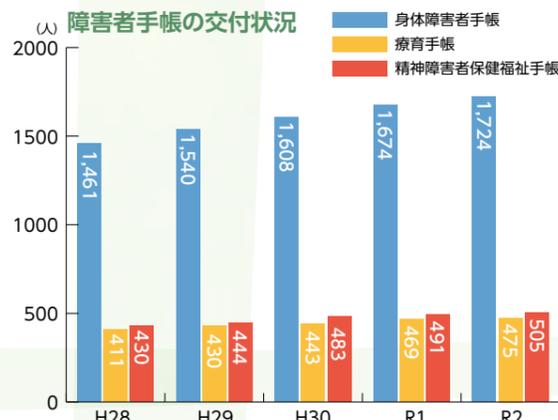
12月3日～9日は障害者週間です。障害福祉への理解を深め、誰もが活躍できる、優しい町づくりを目指していきましょう。

町長 赤嶺正之



## 南風原町の現状

障害者手帳を持っている人は年々増えており、令和2年度では2,704人となりました。手帳は「身体障害者手帳」「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」の3種類に分けられます。



### 障害の種類

種類	特徴
視覚障害	見えにくい、見えないなど
聴覚障害	聞こえにくい、聞こえないなど
肢体障害	手足、胴体が動きにくいなど
内部障害	心臓や呼吸器といった内臓などに問題がある
知的障害	その場や状況に合わせた判断が難しいなど、知的な能力の発達などに問題がある
発達障害	自閉症やアスペルガーなど、脳機能の発達に問題がある
精神障害	意欲や興味低下、不眠、強い不安など 日常や社会生活などの問題がある



## 早期発見 早期治療

精神障害を発症する原因として多いのが不眠です。不安やストレスを抱え眠れなくなり、それが続くと怒りっぽくなったり、自分の感情をコントロールすることが難しくなります。それにより、対人関係の悪化、引きこもり、うつなど状態が悪化していきます。悪化を防ぐには、ストレスを緩和させるための周りの気づきや声かけとともに、早期発見と専門医での治療が大切になります。何からしていいかわからないなど、不安がある場合は、役場2階 保健福祉課 障がい者福祉班へご相談ください (☎889-4416)

## 優しい町を

## めざして



**ヘルプマーク**  
何かしらの障害を持っているなどの理由により、周りの援助や配慮を必要としている方が所有しているマークです。このマークを持っている人を見かけたら、バスで席を譲ったり、困っているようであれば声をかけるなど優しい行動をお願いします。ヘルプマークは役場 保健福祉課障がい者福祉班にて配布中です。